



2010 年度アクションポート横浜 事業報告書

2010/4/1-2011/3/31

NPO 法人アクションポート横浜

1. 市民や組織の連携により、新たな事業やシステムを創造するためのプロジェクト

1) NPOと企業のネットワークを通して、NPOのエンパワーメントをはかる

■協働推進委員会

NPOと企業に加えて、大学や経団連等の組織、有識者にも参加いただき、セクター間の協働をすすめる「協働推進委員会」を設置・運営を行った。企業・NPO・大学等の有識者4名で6回開催。

* 横浜市市民活動支援センター自主事業

■NPOと企業のマッチングに向けたマッチングシステム（仮称）の作成

企業とのマッチングを推進するためにNPOの情報を開示するシートの作成と記入のためのNPO訪問を行った。NPOの現場を訪れることで、シートやデータ上には見えないNPOの長所や専門性が見えたので、そうした情報も合わせて公開できるような仕組みを作っていく。NPOの情報は横浜市立大学GSRセンターと連携し、WEBサイト上で公開予定。* 横浜市市民活動支援センター自主事業

■共同作業の場：みなとみらいクリーン大作戦

神奈川新聞社主催の花火大会後のエコアクション。2010年には企業、NPO、市民、学生等幅広い世代のボランティアが参加し、臨港パークで分別ナビゲート活動および清掃活動を行った。

* 横浜市市民活動支援センター自主事業

* みなとみらい21助成金事業（みなとみらいクリーン大作戦～みなとみらいをきれいで愛着のある街に！）

○分別ナビゲート活動

日時：2010年8月1日（日）15:00～21:30

会場：臨港パーク（全時間）

参加者：61人（実行委員・学生部隊）

○清掃活動

日時：2010年8月2日（月）8:00～10:00

会場：臨港パーク全域

参加者：559名

1894.7Kgのごみを分別収集した。



○実行委員会：HSBCグループ、NPO法人エコキャップ推進ネットワーク、株式会社大川印刷、大塚製薬株式会社、神奈川新聞社、NPO法人自立・支援アリス、大和ハウス工業株式会社横浜支店、西区役所、パシフィコ横浜、前田建設工業株式会社横浜支店、マツダ株式会社、三井生命保険株式会社PMMサービス事業部、株式会社横浜インポートマート、横浜市資源循環局、財団法人横浜市資源循環公社、横浜信用金庫、クリーン大作戦学生部隊、NPO法人アクションポート横浜 など

○学生部隊：61名（9大学、10団体）

○みなとみらいサロン～身近なレジャーの大量ごみを考える市民ワールドカフェ

クリーン大作戦の今後を考える会として実施。クリーン大作戦に参加した企業・学生・市民団体などが集まり、議論をした。

* 横浜市市民活動支援センター自主事業

日時：2010年11月8日（月）18:30～21:00

会場：横浜市技能文化会館

ゲスト：羽仁カンタ氏（A SEED JAPAN 理事）

参加者：20名



■共同作業の場：横浜サンタプロジェクト

企業・NPOと連携して実行委員会を結成し、横浜に笑顔をプレゼントするというテーマで、4つのサンタが様々な活動を行った。企業に働きかけ車や物品の提供をお願いし、活動に参加しやすい土壌をつくることができた。

* 横浜市民活動支援センター自主事業

日時：2010年12月11日（土）12：30～16：00 実施

参加者（サンタ）：332名

（訪問サンタ：61名、ドライブサンタ：17名、
広場サンタ：74名、広場子どもサンタ：67名、
清掃サンタ（ハマスカ）：30名、
清掃サンタ（ハマラブ）：83名）

対象者：325名 * 訪問先の子どもの数



- ・訪問サンタ：横浜市内の4施設にオープンカー、黄色のパトカーでサンタが訪問しました。
- ・広場サンタ：パシフィック横浜円形広場にて、子どもたちがサンタとなる企画を実施しました。
- ・ドライブサンタ：子どもたちを対象にオープンカーのミニドライブ体験を行いました。
- ・清掃サンタ：YOKOHAMA Refresh! G46、ヨコハマ☆スカベンジ大作戦2010と合同で実施しました。

主催：サンタが街にやってきた！2010実行委員会

有限責任 あずさ監査法人、NTTソフトウェア株式会社、株式会社大川印刷、大塚製薬株式会社、首都高速道路株式会社、プロミス株式会社横浜お客様サービスプラザ、マツダ株式会社、横浜ヒューマンリレーション株式会社、横浜市社会福祉協議会、リコージャパン株式会社、NPO 法人アクションポート横浜
共催：「ハマっ子☆サンタ記念日♪」として活動します。

I LOVE YOKOHAMA、ヨコハマ☆スカベンジ大作戦実行委員会

協力企業・団体：

国際交流ゆめプロジェクト、社団法人シャンティ国際ボランティア会、相模鉄道株式会社、相鉄バス株式会社、株式会社スタイリングライフ・ホールディングス プラザスタイル カンパニー、株式会社タウンニュース社、NPO 法人地球の友と歩む会、中越パルプ工業株式会社、株式会社ティンカーベル、にこば横浜ジャックモール店、日清オイリオグループ株式会社、ハイチの会セスラ、株式会社八雲堂、ヨコハマ・グッズ001会員企業、横浜・八景島シーパラダイス、株式会社横浜ベイスターズ、横浜マリノス株式会社、ブリリア ショートショート シアター

○サンタプロジェクト交流会

前年サンタプロジェクトで訪問した施設の方にご参加いただき、2010年度の実施に向けて意見交換を行った。

日時：2010年6月24日（木）16：00～17：30

会場：横浜市ボランティアセンター

○地域デビュー応援フェアに出展

サンタプロジェクトの広報を行った。

日時：2010年11月27日（土）11：00～17：00

会場：みらいチューブ



■マジシャンチャリティイベント企画

バーチャル・マジックで有名なスイス人のマジシャン マルコ・テンペスト氏が、県立こども医療センターを訪問し、入院している子どもたちのためのパフォーマンスを行った。横浜市共創事業本部から相談があり、企画運営を行った。*横浜市市民活動支援センター自主事業

日時：2010年5月21日（金） 13:00～16:00
会場：神奈川県立こども医療センター



■山下公園清掃活動

社団法人中法人会が主催する清掃活動に横浜をエコにするネットワークの活動の一環として参加をした。

日時：2010年7月19日（祝月）



■エールカードの活用

昨年度のヒアリングの結果から、エールカード事業は今年度で終了となった。横浜市市民活動支援課と連名でお知らせ文書を発送し、余ったファイル等はエールカード発行団体に配布した。

■相談対応、マッチング

企業からの相談に対応し、NPO とのマッチングを行った。P社とK団体の共同作業など、いくつか共同事業に発展したのものもある。

【成果と次年度に向けて】

- 協働推進委員会では企業、大学、NPO 関係者が集まり、活発な議論ができたので、今後も継続して開催する。
- マッチングシステムについては、NPO の現場を回ること、企業との連携の可能性や専門性が見えたので、次年度はそうした情報を企業に発信できるような仕組みを作っていく。
- クリーン大作戦においては、実行委員・学生・当日参加者など、ニーズに応じた活動ができ、関わる人数も増えた。
- クリーン大作戦は震災の影響もあり、花火大会の実施も未定なので、今後の経過を見ながら実施については検討を行う。また、ここで得た成果はサンタプロジェクトなどに生かしていく。
- サンタプロジェクトでは、積極的な企業の関わりを引き出すことに成功した。また、プレゼントの協賛という形での幅広い企業との連携ができた。
- サンタプロジェクトの広場サンタでは広報不足・企画の充実などが課題となった。次年度は早めから企画を作り、改善していきたい。

2. 市民や市民活動団体の地域の課題解決や、そのための組織運営を支援するプロジェクト

■ヨコハマ市民まち普請事業（横浜市都市整備局との協働事業）

市民が主体となって身近なまちのハード整備に関する提案を募集し、2段階の公開コンテストで選考された提案に対して、最高500万円の整備助成金を交付する支援を行う事業。横浜市、NPO市民セクターよこはま、との3者協働事業。アクションポート横浜が担当し実施した事業は以下の通りです。

○部会運営の補助：委員による部会の進行補助、記録の作成などを行いました。

○平成22年10月17日(日) 整備成果報告会・活動懇談会の企画運営

今年度、1次審査を通過した方々の相談会と21年度に整備を完了したグループの報告会を行いました。



○広報製作物の企画・制作を行いました。

「整備成果報告会の募集チラシ」「提案募集のチラシ」「ニュースレター・まちぶ しんぶん」

○「H21年度整備・事例集の製作」

平成21年度に整備が終わった事例をまとめて冊子を作りました。

【成果と次年度に向けて】

□まち普請事業は、市民主体によるまちづくり支援制度の全国的にも先駆的な事業である。事業の目的、助成を受けた団体の整備や地域との関係作りなど、市民主体のまちづくりの広がりという、事業の目的や方向性がしっかりしており、市民に浸透してきている。

□横浜市都市整備局地域まちづくり課との協働の関係は良好であり、それぞれの特徴を活かした形で事業がすすめることが出来た。

■予算削減による、助成金額の総額が減額されており、支援対象が減りつつある。

■助成申請から、審査会通過までに実施する活動や準備作業にかなりの労力が必要であり、応募者は減少傾向にある。

■事業の進行管理だけでなく、実際の市民の提案活動における支援などももう少しアクションポートの組織の特徴を活かした形の支援や活動の展開を検討したい。

■横浜市コミュニティビジネス支援事業（横浜市経済観光局との協働事業）

コミュニティビジネスを行っている方、また、これから行おうとする方々のサポート・バックアップをする事業。相談窓口の開設、各種セミナー、交流を目的としたサロンの実施、市内で行われている各種催しの情報発信やマッチングのためのサイトも開設。

○相談事業（電話、専門家による個別相談等）、情報発信（メルマガ、ホームページ）、

○CB事業者・支援機関などのネットワーク構築（支援者会議の開催）

◆日時：7月29日（木） 支援者会議全体会への参加 17拠点22人

◆日時：8月25日（水） 支援者会議第1回分科会への参加 8拠点10人

◆日時：10月29日（金） 支援者会議第2回分科会への参加 8拠点11人

○クリエイティブサロンの開催、（地域拠点の拡充・交流）

◆日時：6月15日（火） クリエイティブサロン in えだきんパーク

◆日時：9月11日（土） クリエイティブサロン vol.2【CBビュッフェ】

◆日時：12月19日（日） クリエイティブサロン vol.3「アート de コミュニティビジネス」

◆日時：1月30日（日） クリエイティブサロン vol.4「コミュニティカフェ サミット」

○セミナーの開催（一般向けセミナー、事業者向けセミナー）

●よこはまコミュニティビジネス体感セミナー 第1回〈講座〉

◆日時：12月4日（土）10:00～13:45（個別相談会は15:30まで） ◆参加人数：14名

●よこはまコミュニティビジネス体感セミナー 第2回〈現場体感ツアー〉

◆日時：12月8日（水）10:00～17:00 ◆参加人数：26名

■コミュニティビジネス実践セミナー「コミュニティビジネス成功のツボを探る」セミナー1、セミナー2

◆日時：2011年2月23日（水）13:00～17:00 ◆参加人数：セミナー1：18名、セミナー2：17名

■コミュニティビジネス実践セミナー「コミュニティビジネス成功のツボを探る」交流会

◆日時：2011年2月23日（水）17:20～19:00 ◆参加人数：13名



【成果と次年度に向けて】

□CBを始めたい方、実際に取り組んでいる方々などに多くの情報提供や相談を行うことが出来た。

□セミナーやサロンを通じて、新たな事業者の発掘とネットワークの構築が出来た。

□この事業を通じて、支援者会議参加メンバー、地域拠点としての協力団体（17団体）、セミナーやサロンにご協力いただいた団体などとのネットワークが構築できた。

■今後は、今回出来たネットワークを継続し、このネットワークを活かした形でアクションポイントとしての活動を展開していきたい。

3. 市民活動や地域の課題解決に関する相談、コーディネート

市民活動や地域の課題解決に関する相談に対応し、随時助言や紹介を行った。

4. 市民活動や地域の課題解決に関する情報提供と問題提起

■ホームページの運営

アクションポート横浜のホームページ (<http://actionport-yokohama.org/index.html>) をリニューアルし、内容の充実を図った。

■会員相互のコミュニケーション手法の検討

会員相互のコミュニケーション手法として、メーリングリストを活用し、アクションポートの事業への参加の呼びかけ、アクションポートに寄せられる情報の発信を行う他、それぞれの会員が参加する活動の情報等が寄せられた。

5. 市民活動や地域の課題解決に関する政策提案

■協働のあり方の研究と提言

子育て支援拠点、子育てひろばの運営団体のネットワーク組織は、対等なパートナーシップに基づく契約のあり方を研究しているが、2008年度に横浜会議の研究事業として採択され、「協働契約のあり方を考える研究会」として協働契約書モデルを提案した。それが2010年度は「新しい協働を考える会」と名称も変え、以下の3つの目的で活動を行った。

- ・ 「協働契約書モデル」の実際の運用に向けた環境づくり
- ・ 対等な一しっぴに基づく「協働」を推進するために必要な、制度設計に向けた具体的な方策の提案
- ・ 当事者視点で事業に取り組む主体としてのNPOの価値を表現し、自立的な市民運営・地域運営につなげるための、会計手法や評価方法の考察

この3つの目的を実現するために、定期的に研究員や外部の有識者を招いて研究会、勉強会を開催した。広く呼びかけて開催したが、毎回他県からも参加者があり、協働契約についての関心の高さを感じさせた。また、年度末には、堀田力氏を講師にしたシンポジウムを開催し、そこでも多数の参加者があった。堀田氏からは、「協働が進展する一方で、法的整備が遅れていることは以前から課題だった」という指摘がある一方、「法的整備についてNPO側から声をあげたことは、ハードルも高いが、意味も大きい」というエールもあった。

新しい協働を考える会とは、2011年度も協力していく予定。

■NPOに関わる法制度についての政策提案

NPO/NGOに関する税・法人制度改革連絡会、かながわNPO研究会、NPO政策いちば運営団体会に加盟し、NPO支援税制の動向やNPO政策いちばイベントなどを、ホームページや会員メーリングリストでの発信した。

6. 市民活動や地域の課題解決に関する人材の発掘と育成

■NPO インターンシップ（学生のNPO 活動体験の実施）

市内の大学と協力し、学生がNPO で夏休み期間中にNPO でインターンとして活動するシステムを運営した。2010年度は、6大学60名の学生が、18団体でインターンとして活動した。



◆参加大学

大学	名称（科目名）	学内窓口
横浜国立大学	地域課題実習「市民活動を体験して考える協働型まちづくりプロジェクトⅡ」	地域実践教育研究センター
横浜市立大学	インターンシップ	キャリア支援センター
横浜市立大学	まちづくり体験実習B	ヨコハマ起業戦略コース
神奈川大学	実社会体験研究	経営学部（平塚キャンパス）
神奈川大学	インターンシップ	就職課
関東学院大学	インターンシップ	キャリアセンター
関東学院大学	インターンシップA,B・ ソーシャルサービス学外実習A,B	工学部社会環境システム学科
フェリス学院大学	ボランティア活動1,2,3	ボランティアセンター
桜美林大学		

◆参加NPO

団体	活動分野
特定非営利活動法人神奈川子ども未来ファンド	若者・子育て支援
特定非営利活動法人びーのびーの	子育て支援
特定非営利活動法人横浜コミュニティデザイン・ラボ	情報・メディア
特定非営利活動法人さなぎ達	ホームレス自立支援
特定非営利活動法人地球市民ACTかながわ	国際協力
特定非営利活動法人横浜NGO連絡会	国際協力
特定非営利活動法人WE21ジャパン	リサイクル・国際協力
特定非営利活動法人障害者自立支援センター	障害者自立支援

特定非営利活動法人神奈川子ども未来ファンド	若者・子育て支援
特定非営利活動法人鶴見川流域ネットワーキング	環境保全（川）
株式会社イータウン（港南台タウンカフェ）	交流の場、カフェ、起業
株式会社K2インターナショナル	若者就労支援
コトラボ合同会社（ヨコハマ ホステル ビレッジ）	コミュニティ再生、起業
日本の竹ファンクラブ	環境保全（竹林）
さわやか港南	交流の場、福祉サービス
片倉うさぎ山公園管理運営委員会	プレイパーク
多文化まちづくり工房	外国籍住民支援
特定非営利活動法人アクションポート横浜	市民活動支援

◆スケジュール

・ 学生募集	4月～5月
・ NPO と大学の懇談会	4月13日（火）夜
・ 事前研修会第1回（NPOの基礎知識）	5月16日（日）午前
・ 学生とNPOのお見合い会	5月16日（日）午後
・ 各学生の希望団体（第3希望まで）を大学に提出	～6月中旬
・ 上記を大学がとりまとめてアクションポートに提出	6月14日（月）
・ NPOによる学生の面接（各団体の事務所等にて）	6月28日（月）～7月11日（日）
・ 事前研修会第2回（受け入れ団体からの報告）	6月11日（金）夜
・ 事前研修会第3回（インターンシップの心得）	7月7日（水）夜
・ インターン期間	8月～9月の2週間程度（10日以上）
・ 報告会&修了式	10月14日（木）夜

【成果と次年度に向けて】

□日ごろ地域の活動や課題と接点をもちにくい学生に対してインターンシップの教育効果は大きい。

□若い人材不足に悩む団体にとって、若い世代と接点をもつことは、活動を活性化する機会ともなる。また若い世代をボランティアとしてのリクルートするいい機会ともなっている。

□大学とも事前に協議して年間の流れを、各大学の予定ともすり合わせて統一化・効率化することができた。

2010年度は、NPOインターンシップを汎用的なプログラムとして整備した年だったので、このプログラムを提示して、広く市内の他大学、他団体に参加を呼び掛けていくことは可能だと思われる。

■まだプログラムが未整備だったこともあるが、市内30近い大学のうちまだ6大学しか参加していない。

- 大学の費用負担が難しい。
- 短期インターンシップは、学生にはいい機会となっても、団体側の負担が大きい。長期インターンシップのほうが団体にとっては戦力となる。
- 学生がお客さんであり、当事者になかなかならない。
- インターンシップを通して、NPO に就職したいと希望する学生もいるが、NPO はなかなか雇用の受け皿にまでなれない。

■若者による市民活動の広報支援プロジェクト（YOKOHAM ACTIONPLANNER）

～若い力を地域へ活かすためのモデル手法の検討と実施

若者が地域やNPOに関わるプログラムモデルとして、若者が得意とする広報を通じた市民活動支援を実施します。若手社会人約30名が約8ヶ月間、4つのNPOの支援を行った。*横浜市市民活動支援センター自主事業

○キックオフサロン

YAP事業の立ち上げの説明会も兼ねたキックオフサロンを開催！

日時：2010年7月18日（日）17:00-20:00

会場：ヨコハマ創造都市センター 3階スペース

参加者：43名



○オリエンテーション

YAP事業に実際関わっていく上でのチーム分けや役割分担など、具体的な活動への第一歩するオリエンテーションを開催。

日時：2010年8月8日（日）13:30-16:30

会場：横浜市市民活動支援センター4階スペース

参加者：21名



○NPOの広報支援

4つのNPOの支援を行いました。

- ・NPO法人教育支援協会：ホームページの作成、イベントでの若者ボランティアコーディネートなど
- ・草の根援助運動：リーフレットの作成など
- ・NPO法人JUNKO Association：イベント支援、会費徴収の仕組みについての提案など
- ・ほどがや市民活動センター：WE21さんへの店内レイアウトへのアドバイス、イベント支援など

○中間報告会

NPOの広報支援における中間報告と後半の活動に向けて、a-conなどからアドバイスもらった。

日時：2010年11月28日（日）14:00-16:45

会場：ほどがや市民活動センター 参加者：21名

○その他

サポートチーム会議：YAP事業運営のための会議を15回実施。

定例会：YAPメンバー全員が集まり、各チームの進行状況や情報交換を行う会議を4回実施。

今後を考える会：YAPの次年度以降の活動を考えるための会議を4回実施。

もちつき大会：メンバーの発案からYAPメンバーの交流会を兼ねて実施。サポートしているNPOであるNPO法人教育支援協会と連携して実施。

【成果と次年度に向けて】

□若者30名が集まり、自主的に活動を行う場を提供できた。

□メンバーの話し合いから次年度は組織としての基盤を整えて、活動を継続することになった。

■忙しい社会人がメンバーなので、チームマネジメントとアウトプットの質は今後検討が必要。